

生命を大切にしようとする意識を高める学級活動の工夫

千葉県夷隅郡大多喜町立上瀑小学校

ながしまきぬよ
永島絹代

【実践の内容】

心の教育や豊かな心の育成が求められる時代の中ではあるが、命についてあまりにも軽く考えているような事件が後を絶たない。そこで一人ひとりの誕生に視点を当てて、生命の大切さや神秘さ、周囲の人から愛情を受けて生まれてきたことを、町保健師・養護教諭とTTを組み、五感を通して様々な体験的な活動を通して、親子で考えさせたいと思い「わたしのはじまり」の学習を計画した。

その結果、手紙や映像などから母親を中心に、家族みんなの愛情を一身に受けて生まれてきたことを実感し、生命誕生のふしぎさにふれ、自他を大切にしようとする思いやりの意識が高まった言動が多く見られるようになってきた。

【論文内容の紹介】

1 研究のねらい

学級活動の指導において、生命尊重の意識を高める手だてには、どのような指導の工夫があるか授業実践を通して明らかにする。

2 研究の視点

- (1) 児童誕生時の思いや願い・気をつけたことなどを家族に手紙を書いてもらい提示。
- (2) 保護者と生命誕生の学習を行い、自分が生まれてきた時のことを聞く場を設定。
- (3) 保健師及び養護教諭とTTを組み、生命の不思議さに感動させる。
- (4) 妊産婦の疑似体験・ペープサート・クイズ・ビデオなど、様々な方法で体験する。

3 実践の概要

(1) 導入

動物のへその有無に注目させ、自分（人）のへその役目について考えた。そして、母親から生まれたことから、自分の生命誕生をパピリオン形式で学習することとした。

(2) 展開

①生命の始まりコーナー（養護教諭担当）

受精の仕組みとして命のもとを父親と母親からもらったことをふしぎなめがねとペープサートで提示。選ばれた卵子と精子であることや大きさを針先の穴で確認し、大変驚いた。

②おへそと赤ちゃんコーナー（保健師担当）

赤ちゃんクイズを行い、胎内に10ヶ月いることに驚いた。次に3・5・8ヶ月の胎児の図と実際の大きさの胎児人形を抱かせながら説明。そして、誕生時の沐浴人形を抱いた。その間へその緒を通して栄養と酸素をもらったことを人形とビニール管で提示し、へその緒の役目を実感させた。保護者もおなかの胎児に話しかけたことなどを伝えた。

③お母さん体験コーナー（担任担当）

児童の出生時の身長・体重を紙テープ・砂袋で親子で実測。沐浴人形を親子で順に抱き、当時の保護者の思いを児童と話し合った。そしておもりの付いた妊婦疑似体験セットを付け歩行したり立ったり座ったりした。母親の重さ・大変さ・大きくなつての願いを実感。

(3) 終末

胎児のビデオを視聴後授業の感想を分かち合った。全員の赤ちゃんの写真をスクリーンに提示。母親が手紙を朗読し、児童と保護者の目に涙が浮かんできた。児童は自分の誕生への感謝の気持ちを手紙に書いた。

4 成果と課題

- (1) 自分の生命誕生を考え、愛情をうけてきたことを実感でき、自他の大切さが感じられるような思いやりのある言動がふえた。
- (2) 生命について関心が高まり、互いを大切にしよう意識が高まってきた。
- (3) 生命尊重の学習の系統化と実践の方法の具現化についてさらに研究を積みたい。